



夕刊 七月八日発行

### 愚庵和尚研究 訂正

島田忠夫

さきに本紙に掲載したる「愚庵和尚」の西隣、拙稿のうち、天田愚庵和尚の承は、かすかに予の兄、真武氏の生母は、平も想起する。予が幼少時、藩の有賀家より出たる如く、平町に在りて藤田幼雅園に習いたが、これは誤りであらう。予が幼少時、平町の下川部家から出た由、當時は村に上郎(平藩士)であつて、この天田村にある筈。真武氏等の生いふ人が居を構へてゐた筈、母は死んで、後、林龍卓である。これは最近、加藤丈夫氏(五郎)等を生んだことになり、御教示を受けた。

本紙に掲載する拙稿に就いて、大方の識者から、種々御教示下さるは、忝い次第である。

さきに拙稿は、愚庵の兄弟中、川島家に嫁した一人、東條家に嫁した一人、この二人の姉あるを報じた。しかも二人とも明治二十七年まで生存して居つて、今までの「愚庵研究」には、目知られなかつた事であつた。

しかるに、今回さらに、柳原家(下野野あつたりの神宮)に嫁したのがあつたのを知つた。これは近日中に、いぢご調査に出かけた上、詳細するつもりである。

愚庵等の出生せる白銀の藩邸、乃ち天田家の邸跡に就いて、拙稿は現在に加藤丈夫氏の事務所あたりと報た、しかるにこれは誤りであつた。

天田氏は、現鐵道省の平機關庫の敷地であつた。

### 雑詠

#### 盛 菊 枝

松風の音もこぞすれ高殿の障子鳴らして夕かせ吹くも  
岸の邊の柳は青く芽吹きたれ鴨の脊に照る光まぶしき  
磯蟹の小さを持て砂丘に落つる夕陽を見つづわが居り  
沖つべにたれた小舟は日もすがら漁すらしき春日照る海に

驟まで人送りゆきて遊蛙いとほしみつづ吾が戻る

### 學藝消息

△今井邦子氏 歌集『紫草』(第三歌集)が岩波書店より出版された。アララギ叢書の五十一。價貳圓參拾錢。

△中村憲吉氏 歌集『輕雷集』(第四歌集)が古今書院から出版された。アララギ叢書の三十六。價貳圓貳圓。

△淺草寺再建(明治八) △端保己一卒(明治八) △文政四 △司法省設置(同) △狩野(法眼)正信歿す、狩野家開祖の書家也、其子元信は狩野家の泰斗なり(延徳二) △エドマンド・バーク歿す、英國の政治家にして文豪也。其幼弟の如き學識と熱烈の如き雄辯とを以て、第一の花形とす、其著『佛蘭西革命論』は有名である(紀一、七九七)

△一日一禪  
天風吹落柳御山  
四海流瀟瀟看  
講 談

### 父と戯むる(詩)

初夏の霧がしつとりと夕暮の田園を包んでゆく香もなほのどろりと焚き上ぐる憂鬱に  
幻影の如くつらなる山脈いつかしら  
斯く悲しい追憶をカラ〜となる筈にたくとしてくれた  
油繪具でとかしたキャンパ

### 元禄名妓傳

小邑井小八流(宮野恒彦著)  
一八八席  
問髪を容れずとも申しませうか、彌左衛門は油断してゐる、其處を見込んでお大蓋の福が笑いて出望んだお喜は其許ならずしては江戸表町奉行牧野大隅守のだから、大概のものな妹のお喜知、それを何か殿のお差障によつて召取に



拈華微笑 元子弟の爲善戰 骨を折て町民か 良くも思はれぬ傘屋の番頭格 な四倉の頭株連 貸費審査に伏見 委員が出馬。地 亂暴もしたらしい、彼が警 視廳に引かれたのも、當時 は西南戦争の前でもあり、 かつは愚庵が長く鹿見島藩 在の後のことでもあり、 君倉具視卿を暗殺の目的で 上京せるにあらずやとの説 もある。この間、甚だ愚庵 壯年の無茶を語つて充分 である。

「アララギ」七月號に發表 した拙稿「愚庵和尚の生年 月日」に就いては、諸方か ら謝辭と教示を受けてお る。その中に暗示的に、上 荒川の一件をはのめかして あるのを、非常に興味持っ て見てゐるやうである。い

六、一三

心根違ひ致して満月了賀が罷出た、拙者に手向ひする 一學講師河竹繁俊 △二、三〇〇 經濟市況 △三、四〇〇 經濟市況 △三、五〇〇 經濟市況 △四、〇〇〇 ニュース △四、一〇〇 經濟市況 △四、二〇〇 經濟市況 △四、三〇〇 經濟市況 △四、四〇〇 經濟市況 △四、五〇〇 經濟市況 △四、六〇〇 經濟市況 △四、七〇〇 經濟市況 △四、八〇〇 經濟市況 △四、九〇〇 經濟市況 △五、〇〇〇 經濟市況 △五、一〇〇 經濟市況 △五、二〇〇 經濟市況 △五、三〇〇 經濟市況 △五、四〇〇 經濟市況 △五、五〇〇 經濟市況 △五、六〇〇 經濟市況 △五、七〇〇 經濟市況 △五、八〇〇 經濟市況 △五、九〇〇 經濟市況 △六、〇〇〇 經濟市況 △六、一〇〇 經濟市況 △六、二〇〇 經濟市況 △六、三〇〇 經濟市況 △六、四〇〇 經濟市況 △六、五〇〇 經濟市況 △六、六〇〇 經濟市況 △六、七〇〇 經濟市況 △六、八〇〇 經濟市況 △六、九〇〇 經濟市況 △七、〇〇〇 經濟市況 △七、一〇〇 經濟市況 △七、二〇〇 經濟市況 △七、三〇〇 經濟市況 △七、四〇〇 經濟市況 △七、五〇〇 經濟市況 △七、六〇〇 經濟市況 △七、七〇〇 經濟市況 △七、八〇〇 經濟市況 △七、九〇〇 經濟市況 △八、〇〇〇 經濟市況 △八、一〇〇 經濟市況 △八、二〇〇 經濟市況 △八、三〇〇 經濟市況 △八、四〇〇 經濟市況 △八、五〇〇 經濟市況 △八、六〇〇 經濟市況 △八、七〇〇 經濟市況 △八、八〇〇 經濟市況 △八、九〇〇 經濟市況 △九、〇〇〇 經濟市況 △九、一〇〇 經濟市況 △九、二〇〇 經濟市況 △九、三〇〇 經濟市況 △九、四〇〇 經濟市況 △九、五〇〇 經濟市況 △九、六〇〇 經濟市況 △九、七〇〇 經濟市況 △九、八〇〇 經濟市況 △九、九〇〇 經濟市況 △十、〇〇〇 經濟市況

切下る 福あつ...と取違ひ、母は若病に憂き身 倒れる途端にお房は何思ひを遺して居る、是れは其多 げん、バラ〜と左の船が鍋島益千代の成す業、其 右衛門と諸共の運命に赴き居るとは言語道斷、今日 顧りてございませう 彌よ心を入替へ、年寄つた ツコイならぬ」と是又えん 老父母を慰めてこそ、親と びを延ばして帯際を取つたなり子と生れた甲斐がある 房「お慈悲でございませう、と云ふもの、我儘勝てに身 放して殺して下さいませう、と云ふもの、是程の 彌「イヤ夫はならぬ、其許こと分らぬ其許とは開及ば には死なで叶はぬ仔細はなぬが、是れはごうぢや」と 何の爲めに突つた心お房を許へ引掛て懇々 尾様にもお似合のないお言ふは、房「死んで不 女、其申譯に...彌「夫孝養を盡すが女の道、まだ 房「分らぬと申すもの、迷ひの夢が覺めぬか!」房 拙者に背いたとは何のこと、益千代様は鍋島様の御家 拙者は曾て以て其許に背か左様な悪事を働く方であ した事は、或はお喜知りませぬ 彌「それがいか どの縁談のことを左様に思ふと申すもの、善か悪か はんのか存せぬが、拙者は上の目がある、第一拙者 △二、〇〇〇 家庭大學講座 (日本演劇史)、早稲田大

<b>生花教授</b> 家元龍生派池坊 生花、盛花、投入自然 営業では御座りませんが趣味で御相手致し度 うございませう 平町 仲町三 天水庵華道教授 岡田華悦	<b>開業</b> 耳鼻、咽喉科、専門 氣管、食道科、専門 平町南町 (元兵衛木辯護士跡) <b>増田耳鼻咽喉科醫院</b> (入院隨意)	<b>和洋食堂</b> 開設披露 今般和洋食堂部開設を爲 今般中奉仕の大勉勵致し 可く何卒奮一倍シテ御來 店御待ち受ケマス 四倉町字新町十三番地 御料理 小松屋 雅名忠太郎 (元藤原義隆) (於テ逢來亭)	<b>夏海</b> 夏は海に カフェーガールが 待つて居る 來四倉サービスに エロハースセント 四倉町新町 <b>カフサービス</b> 女給さん至急入用	<b>上田科醫院</b> 院長 上田耕作 平町南町 電二二九	<b>廣 告</b> 和洋食堂 開設披露 今般和洋食堂部開設を爲 今般中奉仕の大勉勵致し 可く何卒奮一倍シテ御來 店御待ち受ケマス 四倉町字新町十三番地 御料理 小松屋 雅名忠太郎 (元藤原義隆) (於テ逢來亭)
---	--	--	--	--------------------------------------	---

<b>藤沼醫院</b> 内科、小兒科 入院應需 花柳病科 電話 平町 五〇七番	<b>大谷時計病院</b> 十燭以下十二錢、五十燭マデ十八錢 御電話ガアラバ届ケマス。 平三 眼鏡 電話十九番	<b>ガス入電球 値下</b> 次々又値下	<b>陽胃</b> 内科 二十指 淋病 専門 皮膚病 専門 婦人病 <b>院醫科性胃腸村松</b> (番七〇一話電町南平)
--	---	--------------------------	---

